

2022年6月24日 5歳児公開保育研修会 ふりかえり

研修の目的

- 1 | 5歳児の保育実践を通じた対話をする中で、各々の身体を通して語り、問い直す機会とする

参加者

廣瀬 聡弥 教授（奈良教育大学） 参観者 17名
本園教諭6名、副園長、養護教諭

公開保育研修会



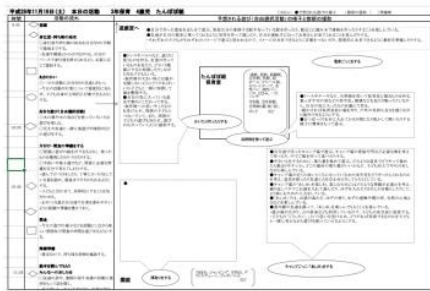
- 9:00～ 公開保育
12:05～ DD (Dairy Dialogue) オンライン配信
13:00～13:25 遊びの痕跡から子どもの文脈や意味を感じよう
13:30～16:50 研修会
- ・本研修の内容及び今年度の研究について
 - ・公開保育担当による振り返り
これまでの子どもの育ちと保育の振り返り
 - ・小グループでの対話-自らを振り返る
 - ・グループでの話題を共有
 - ・奈良教育大学教授 廣瀬聡弥先生より
- 16:00～ 研修会第2部 | 異文化DD
研修に参加して思い考えたことを対話する

グループでの対話

- A: 保幼小連携では、上の学年になれば偉いのではなく、それぞれとして向き合う、子どもが主体である。
- B: 子どもの主体性を大事にするうえで、保育者はどのような存在なのか？こちらの意図があつて道具や素材を置いて、そのように使わないことがある。子どもの主体性とルールを守ることとは？（水の使い方-水はたくさん使っているのか？）ルールを子ども達と決めていくことが大切。
- C: 園によってクラスの数、様子が違うが、それぞれで悩みが違う。遊びが単発的になってしまうと、つい教師が声をかけてしまう。子ども同士の対話の積み重ねの中で、子ども同士が気づきを言い合うことで関心をもてるようになる。関心をもつためには、話をさせる場をもつ事が有効。多様性のあるところでテーマを設定すると話しやすい。話し方の型ではなく、中身が大事。生活経験の中から話し合いの内容を立てる。子ども達にどういった力をつけたいかをきちんと自覚し、それに活動を合わせていくことが大切。公開研をするからそのために見せるのではなく、普段の姿を見てもらうことでより育ちが見えるのではないかな。
- D: コンテンツとコンピテンシー 水を袋に入れるだけで楽しい。年齢で楽しさを判断するのは教師の方。どう環境に出会わせていくかが大事。教師が子どもと対等に生活していくことが必要。
- E: めあてをもって保育したいが、何を大事に保育したいか考え直している。先生は先生らしくあるべきなのか？子どもと一緒に問いを作っていくのも大事。長いスパンで計画しながら作り上げていく。流れ通りにいかないと教師としてはイライラするが、子どもが納得してできるなら変更してもよい。先生に言われるばかりの活動ではだめ。PDC Aサイクルではなく、子ども・教師スタートで考えていく。うまくいかないのは失敗ではなく、新たに考えるきっかけである。

新たな提案

「指導案」 から 「省察の履歴」 へ



教師が一人であれこれ考えることで
考えに捉われる基になる当日指導案



子どもと、何を大切に意味を生成してきたのか、
実践の履歴によって表現する資料

ふりかえり（抜粋）

- ・子どもの主体性を大事にするうえで、保育者はどのような存在なのか。
- ・コンテンツとコンピテンシーの捉え。年齢で遊びの楽しさを判断しているのは教師である。どのように環境に出会わせていくのか。教師が子どもと対等に生活していくことの必要感。
- ・何を大事に保育したいか。先生は先生らしくあるべきなのか。子どもと一緒に問いを作っていくこと。長いスパンで計画しながら作り上げていく。うまくいかないのは失敗ではなく、新たに考えるきっかけである。
- ・時間と教師の思いと子どもたちの思いを限られた園生活の中でどのように保障していくか。幼児教育の根底は何か。育ちとは何か。

